令和4年第1回掛スポ指導者の会

# 発達障害の子どもとスポーツ指導

～基本的なとらえ方・接し方～

令和4年6月27日（月）
於 さんりーな

掛川市教育センター教育指導員　匂坂　弘

## こんな子どもの指導でお悩みではありませんか？

スポーツ指導の場面において
- まわりとうまく合わせられない子ども
- コミュニケーションが苦手な子ども
- こだわりの強い子ども
- 多動でじっとしていない子ども
- 話が聞けず指導が入らない子ども
- 不器用で努力しても進歩が見られない子ども

**発達障害（もしくはその傾向）が隠れているのかも？**

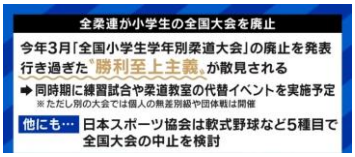
## お伝えしたいこと

①勝利至上主義を考える
　時代は、勝利至上主義と訣別の方向
　～どんな子どもにもスポーツ参加の機会を～
②発達障害（またはその傾向）をもった
　子どもたちが増えている
③目で見てわかる指導を　TEACCH
④褒めることで強化する　応用行動分析

## Ⅰ　勝利至上主義を考える

全柔連（全日本柔道連盟）、小学生の全国大会廃止を決定（令和4年3月18日）

大会があれば、優勝を目標にする個人や団体が出てきて加熱してしまう。全国大会は勝利至上主義へと傾く大きな要因となる。「将来大いに伸びようと思う者は、目前の勝ち負けに重きをおいてはならぬ」嘉納師範




## Ⅰ　勝利至上主義を考える

指導者が目先の勝利にだけ気を取られて型にはめていたら、メジャーリーグで大谷翔平の二刀流の活躍はあったか？目の前の勝利にだけ固執していたら、佐々木朗希の完全試合はあったか？

## Ⅰ　勝利至上主義を考える

**勝利に固執しすぎることで、主体性が育たない**

「子どものときから暴言、暴力を受け、常に怒られないよう気を遣い、一度も楽しいと思えなかった。そのため、主体性・自発性が育たなかった」

元バレーボール日本代表
益子直美さん

## Ⅰ　勝利至上主義を考える

勝利至上主義の3つの弊害

一つは、野球が子どもたちのためではなく、指導者の実績や功績、関係者や親など大人たちの満足のためのものになってしまいがちな点

二つ目は、選手が大人の顔色ばかりを見て、自分で考える習慣が身に付かないまま育ってしまうこと

三つ目は、そういう野球は単に選手の成長の芽を摘むだけでなく、最悪の事態（心身に異常をきたす）を引き起こしかねないことです　筒香嘉智『空に向かってかっ飛ばせ！』

## Ⅰ　勝利至上主義を考える

**出生81万人 少子化加速**

国推計より6年早く到達

2021年に生まれた日本人の子ども（出生数）は811,604人で、データがある1889年以降で最少となった。前年より29,231人少なく、減少は6年連続。国の推計より6年早く81万人台前半に突入し、少子化の加速が鮮明になった　（朝日6/4付）

発達障害の子どもの多くは、勝利至上主義が苦手

発達障害を含むどんな子どもにもスポーツ参加の機会を！

掛川市総合スポーツクラブの目的
地域住民のスポーツ参加率の向上、生涯スポーツの実現

## Ⅱ　発達障害とは？

- 気が散りやすい
- 忘れっぽい
- うっかりミスが多い
- じっとしているのが苦手
- 出し抜けに答えてしまう
- 人付き合いが苦手
- 一人でいる方が良い
- チームプレイが苦手
- 普通のお喋りが続かない
- こだわりが強い
- 空想するのが好き
- 聞き間違いがある
- 話し合いが苦手
- わかりやすく伝えるのが難しい
- 読みにくい字を書く
- 大きな音が苦手
- 触られるのが苦手

人は何かしらの傾向をもっています

## Ⅱ　発達障害とは？

**連続体（スペクトラム）**

診断基準を満たすようであれば「障害」と診断される

人は何かしらの傾向をもっています

## Ⅱ　発達障害とは？

統一された定義は存在しない

発達障害者支援法（平成16年）第2条

この法律において「発達障害」とは、自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害その他これに類する脳機能の障害であって、その症状が通常低年齢において発現するもの

（知的障害は、すでに支援する法律があったため、この法律の対象からは除かれている）

## Ⅱ　発達障害とは？

| | 障害の種類 | 備　考 | 頻度 |
|---|---|---|---|
| 第1グループ | 知的障害と境界線知能 | IQ70以下が知的障害<br>71～84は境界線知能 | 15．1％ |
| 第2グループ | ASD（自閉スペクトラム症） | 自閉症、アスペルガー症候群、高機能自閉症、広汎性発達障害を含む | 2．1％ |
| 第3グループ | ADHD<br>LD | 大脳の実行機能による障害 | 6～8％ |
| 第4グループ | 虐待による発達障害 | 愛着の未形成による多動、解離性障害など | 2％ |

## Ⅱ　発達障害とは？特別支援教育15年

平成18年　法改正　それまでの特殊教育→特別支援教育へ

**平成19年　　特別支援教育スタート**

特別支援教育とは、従来の特殊教育の対象者の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うもの

発達障害（LD・ADHD・高機能自閉症等）の可能性のある児童生徒：6．5％程度

※ 平成24年に文部科学省が行った調査において、教員により判断された回答に基づくもの

## Ⅱ　発達障害とは？
### 知的障害・境界線知能

知的障害とは、一般的にIQ70以下をさす（この数字はあくまで目安）。世界的に、知的障害は人口の2．1％前後であると言われる

最近特に焦点が当てられているのが境界線知能＝IQ71～84の子どもたちである。計算上14％がこの範囲に入る。すなわち小中学校で言うと、学級の下から5人に入る子どもたち。これは知的障害が「ある」とも「ない」とも言えない、まさに境界線にいる子どもたちで、実は学校で最も苦労しているグループの一つである

## Ⅱ　発達障害とは？
### ASD(自閉スペクトラム症)

生まれつきの社会性のハンディキャップを中心とする発達障害。かつて自閉症、アスペルガー症候群、高機能自閉症、広汎性発達障害などの診断名があったが、現在ではASDに統一されている

①社会性の障害＝相手と視線を合わせること、手をつないだり体に触れることなどの対人関係が苦手　②コミュニケーションの障害＝言葉の発達の遅れ、相手の表情や声を理解することが苦手　③想像力の欠如とこだわり行動＝相手がどう感じているか理解できない、「暗黙のルール」が分からない、こだわりは、色・順序・形、対人関係のこだわりなどさまざま

それ以外にも感覚過敏や、多動、学習障害、不器用さなどを呈することがある。ASDの多くは視覚優位

## Ⅱ　発達障害とは？
### ASD(自閉症)の文化

**心の理論**

他者に心や感情があるということを認識する、具体的には他者の心、つまりは考えていることや意図などを推測する能力

**サリーとアンの課題**

通常発達の子どもでは4歳以降から正答率が増加するが、ASDでは正答率が低いことが報告されている

## Ⅱ　発達障害とは？
### ADHD（注意欠如・多動症）

子どもというのは元来、多動な存在である。年齢が幼いほど集中力の持続は短く、ジッとしていられない。またグラウンドなど広いところへ行くと、訳もないのに全力で走り出してしまう

この①多動性に加えて、②衝動性、③不注意の3つの特徴がいくつかの組み合わせで出現するのが、ADHD（attention-deficit/hyperactivity　dis--order　注意欠如・多動症）。ADHDには多動・衝動性優勢型、不注意優勢型、混合型の3タイプがある。ADHDの80％には、コンサータやストラテラなどの向精神薬が効くことが知られている

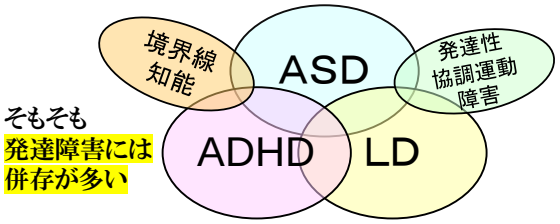
## Ⅱ　発達障害とは？
### LD（学習障害）

知的な能力に比べて例えば文字を読む、文字を書く、計算するなど、ある特定の学習領域に限定した極端な学力の問題を抱えている、通常の学習では成果が上がらない子どもたち

最も多い読字障害を例に取れば、一般に言葉の基本となる「音素」の認知自体にハンディキャップを抱えており、その結果言葉のまとまりとしての把握が難しく、読字の困難さにつながるらしい。教室の中においては、知的な遅れが目立たないことから「怠けている」と誤解されやすい立場の子どもたちと言える

## Ⅱ発達障害とは？
### 発達性協調運動障害と障害の併存

いわゆる「**極端な不器用児**」。運動発達の遅れ、物をよく落とすこと、不器用、スポーツが苦手、書字が苦手などで気付かれることが多い。他の発達障害との併存が多い




そもそも
**発達障害には併存が多い**

## Ⅱ　発達障害とは？
### 発達障害と言われる偉人たち

アインシュタイン、エジソン、グラハム・ベル
アントニオ・ガウディ、ウォルト・ディズニー
アンデルセン、アガサ・クリスティ、ピカソ
レオナルド・ダ・ヴィンチ、ロダン、岡本太郎
モーツァルト、ベートーベン、トム・クルーズ
ロビン・ウィリアムズ、キアヌ・リーブズ、
スティーブ・ジョブズ、織田信長、坂本龍馬
さくらももこ、水木しげる、黒柳徹子、長嶋茂雄など

**時代を変革してきたのは、常識にとらわれない人たち**

## Ⅱ 発達障害とは？増えている発達障害

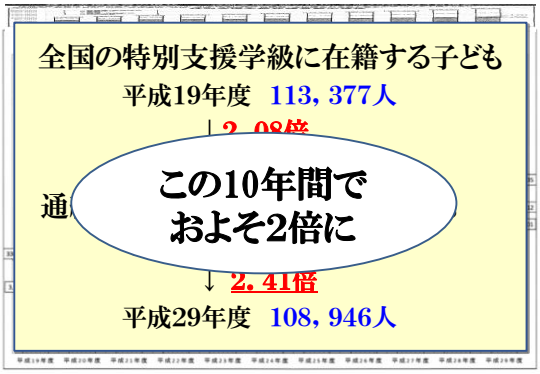
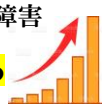



図2　特別支援学級在学者数の推移

## Ⅱ 発達障害とは？増えている発達障害

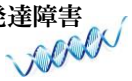
**自閉症の患者数は著しく増加している**



2014年アメリカ疾患管理予防センターのデータ
**1975年 1/5,000人 → 2001年 1/250人 → 2014年 1/68人**
**この40年ほどの間に70倍以上自閉症の患者数が増加している**

急増の原因は？【社会的な要因】
①この30年ほどの間に、**診断基準や診断方法が変化した**
　＝**自閉症の概念が拡大した**
②自閉症という疾患が**広く認知された**
　＝診断される数が増えた
③現代社会が**コミュニケーション力**をより必要とするようになった

## Ⅱ 発達障害とは？増えている発達障害



【遺伝子の観点から】
数十年という時間は、集団の中で遺伝子変異が広まるには早すぎる影響が現れるまでには、数世代という長い歳月がかかる

【医学的な要因】

①**母体環境の変化＝低体重出産、疾患や服薬**
母体の栄養不足が胎児の発生にダメージを与えている
**低体重出生児の増加**。日本では出生時2，500g以下の新生児は1975年に5%　→　2010年には10%に増加
**周産期（出産前後）の母体環境**。妊娠期に風疹などに罹患すると、子どもに発達障害や自閉症リスクが高まったり、ある種の薬品が自閉症につながったりすることは明らかになっている

## Ⅱ 発達障害とは？増えている発達障害

【医学的な要因】

②**父親の加齢＝結婚年齢の上昇に伴うリスク**
**父親が15～29歳のときに生まれた子が自閉症になるリスクを1とすると、30～39歳で1．7程度、40～49歳では5以上、50歳を過ぎてからは9にまで高まる**
（父親の加齢による自閉症リスクの米国における疫学的調査2006年）
（デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、オーストラリア、イスラエルの3万人の自閉症児を含む解析2015年でも、父の加齢と子の自閉症の間には相関性あり）
個体のDNAの塩基配列が加齢によって変化することは基本的にない。しかし、一生分裂を繰り返す幹細胞では、DNA複製時にコピーミスが生じることがある。精子も同様で、**精子が作られるときに生じるコピーミス**は、加齢とともに増える傾向に

## Ⅱ 発達障害とは？増えている発達障害

【医学的な要因】

③エピジェネティックス

DNAの配列

現や細胞

伝情

りうる

まった

形質は

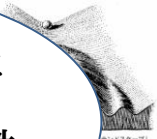
そして後

に受け継がれるケ

いろいろな仮説があるが、環境の影響が大きく関与することが明らかになっている

発達障害は、明らかに
増えている
今後も増えていく可能性
が高い

エピジェネティックス
の概念図



な細胞が
ニズムを、
落ちるボールに
。ボールが転がり
るときに、たまたまある
谷に落ち込むと、もはや後戻
りできない。同じ遺伝情報を
もっているはずの細胞が、分
化する間に変化していく。

## Ⅲ 指導のヒント 特別支援教育15年が経過

子どもに嫌われる授業とは？

▼勉強のできる子だけを相手にしている授業
▼皮肉っぽい、嫌味が多い授業
▼気分屋、理由もなく怒る授業
▼冗談を言わない授業
▼けじめがなくダラダラとした授業
▼やることが明確でない授業
▼説明が長い授業
▼声が小さく、表情が暗い授業
▼やたらと自慢する授業

## Ⅲ 指導のヒント

子どもに好かれる授業とは？

○説明が短く、わかりやすい授業
○勉強ができないことに共感しながら進める授業
○少しでも良い所を発見し、ほめながら進める授業
○笑いやユーモアのある授業
○開始時刻に始まり、終了時刻にピタッと終わる授業
○自分の失敗や、人は失敗することから成長することを体験的に語る授業
○叱るときも頭ごなしに叱らない。まずわけを調べ、理由を挙げて叱る

## Ⅲ 指導のヒント 集団の規律

「躾」＝指導者が先頭に立って、規律を確立する

①話が聴ける … 指導の基本、個を大事にすること
「聴」の意味 ／「しっかり聴いてくれてありがとう」

②時間を守れる … 時間の管理は指導者の務め
開始時刻を守る ／ 終了時刻で終わる

③言葉遣いとマナー … 発言力の弱い子でも声を出せる
「僕」「私」「です」「ます」 ／ 発言は挙手or指名が基本

④集団のルールを明示 … 視覚化する
「人の話を聴く」・「人を傷つけない」など

⑤集団は20:60:20 … 真ん中の60%を味方につける
普通にできているときに褒める、仕切り直しは何度でも

## Ⅲ 指導のヒント 目で見てわかる

TEACCH（自閉症およびコミュニケーションにつまずきをもつ子どものための治療教育）は、アメリカのエリック・ショプラー博士らによって1960年代にノースカロライナ州で始められた自閉症療育法。その後、我が国を含む全世界に広がりました

TEACCH（Treatment and Education of Autistic and related Communication handicapped Children）

①自閉症の学習スタイル（自閉症の文化）にもとづくアプローチ
②視覚化（構造化）を用いる。知的障害、LD、ADHDなど他の発達障害にも応用が可能
③アセスメント（情報収集）をきちんと行い、自閉症の特性に応じた手立てを考え実践する

## Ⅲ 指導のヒント 目で見てわかる TEACCH

■TEACCHによる視覚化（構造化）

①自閉症の子どもを支援するアプローチ
②自閉症の、視覚情報を理解しやすい特性に合わせて、「視覚化」（構造化）を行う
③子どもを変えるのではなく、環境を変える

自閉症の子どもにとってのわかりやすさ
＝
視覚化（構造化）

空間の構造化
時間の構造化
手順の構造化

目で見てわかりやすくし自分でできることを増やす

## Ⅲ 指導のヒント 目で見てわかる TEACCH

■ 視覚化（構造化）の例

目で見てわかりやすくし自分でできることを増やす

## Ⅲ 指導のヒント 目で見てわかる TEACCH

■ 視覚化（構造化）の例

目で見てわかりやすくし自分でできることを増やす

## Ⅲ 指導のヒント 目で見てわかる

**視覚化の活用**

1 目で見えるように話す
具体的に 要点を絞って（せいぜい2つ）
「一つ目は…二つ目は…」 例を用いる

2 ホワイトボードを使う
活動の流れを示す
流れがわかれば、自分で動ける

3 タブレットPCの活用
プレイを撮影して本人に見せる
自分ではわからなかったポイントが見える

## Ⅳ 指導のヒント 褒めることで強化

自分は子どもに向けた話の最後に必ず「しっかり聴いてくれてありがとう」と述べることにしています。これは、単なるリップサービスではありません。行動の直後にその行動を褒めることによって、「しっかり聴く」という好ましい行動を強化しているのです

この褒めることで行動を強化すると言う考え方は、応用行動分析（ABA＝Applied Behavior Analysis）という学問にもとづいています。まずは、褒めることの価値から考えてみましょう

褒めることはどれほど大切なのでしょう。褒められたことがわかればセルフ・エスティーム（自己肯定感）が上昇し、やる気が出てきます。他方、褒められなかった（強化されなかった）行動は、しばしば次のときには実行できません。うまくいった経験が次につながります。失敗の経験は、次のやる気にはなかなかつながりません

## Ⅳ 指導のヒント 褒めることで強化

褒めるためのポイントは、できて当たり前だと考えないことです。たとえば、列に並ばないときに叱るのであれば、並んだときに褒めます。できないときに叱ったり、注意したりするのであれば、できたときに褒めるということです

褒められることは蓄積されますが、叱られることは蓄積しません。慣れるだけです。例えば、仕事で何か大きな失敗をしてしまった。上司が3人出てきて1人目が叱り、2人目も叱ります。ここまでは仕方がないと思っても、3人目になると聞き流しているだけで真剣には聴いていません。慣れてしまうからです

しかし、褒めるにしても、いきなりだと戸惑います。「何か、変？」。特に思春期以降では、何か下心があるのではないかと疑われます。こんなときには「ありがとう」から始めましょう。「ありがとう」は、たいへん優れた褒め言葉です

## Ⅳ 指導のヒント 褒めることで強化

■ 行動の強化

例）「しっかり聴いてくれてありがとう」と、聴く態度を褒めることにより、聴く態度が定着する

| 先行事象 | → | 行 動 | → | 後続事象 |
|---|---|---|---|---|
| 笑顔と褒め言葉なし | | 良い姿勢で聴く | | 笑顔と褒め言葉あり |

①行動は、行動直後の結果によって左右される
②行動の直後に「笑顔と褒め言葉」を与えることによって、行動を強化することができる
③「命令」ではなく「提案」、「大声」でなく「穏やかに」、「否定」ではなく「肯定」を用いて効果的に行動を教えることができる

## Ⅳ　指導のヒント

### 応用行動分析学

1930年代にアメリカの心理学者B·F·スキナー(1904～1990)が、ハトやネズミを用いた実験を繰り返して発見した動物の行動の原理を整理した心理学の体系が「行動分析学」です

これを教育やビジネス、スポーツ、健康、医学、リハビリテーション、動物のしつけやトレーニングなどに応用したのが「応用行動分析学」であり、特に特別支援教育においてはTEACCH(ティーチ)と並ぶ自閉症療育の方法として確立されています

スキナーが動物実験に使ったスキナー箱

## Ⅳ　指導のヒント

行動の真の原因は行動の直後にある

スキナーが発見した行動の原理で最も重要な点は、「行動は、行動直後の結果によって制御される」ということです。スキナーは数多くの実験を通して、特に行動の頻度に着目し、その行動が繰り返されるか、それともしなくなってしまうかは、その行動の直後に何が起こるかで決まってくると結論づけました

行動の直後とは、まさに「直」後であるほど効果的で、目安として60秒以内に起こらない結果はほとんど意味がないと考えられています

## Ⅳ　指導のヒント　褒めることで強化

### 行動を強化する工夫

| | |
|---|---|
| 具体的な行動を褒める | 直後に、にこやかに、目線を合わせ<br>気持ちを込めて、皮肉を入れずに<br>行動を始めたら、少しでもやったら<br>行動の難易度を下げて<br>（褒める） |
| 消　去 | 望ましくない行動を無視する<br>行動を無視するが子どもは無視しない<br>目を見ない、無表情で、身体の向きを変えて<br>時間を要する、消去バーストに注意 |
| プロンプト | 正しい行動を引き出すヒント<br>「ポイントは何？」「引きつけて打つことです」<br>引きつけて打てたら、すかさず褒める |

## こんな子どもにどう対応する？

**周りとうまく合わせられない子ども**
人の気持ちがわからない、見えないものはわからない
図にして書いて説明してやる

**コミュニケーションが苦手な子ども**
何と言って接したら良いのかわからない
挨拶を教える
まず聴くことや相づちを打つことを指導

**こだわりの強い子ども**
こだわりを活かしてその分野の専門家にさせる
勝ち負けに執着しすぎる子には、人生には勝ちより負けの方が多いことを教える

**多動でじっとしていない子ども**
人前でさせて褒める
○分間じっとしていたら褒める
多動が激しすぎるときはその場から離す

**話が聴けず指導が入らない子ども**
まず大事なことを2つ話しますと前置き
しっかり聴けたら「しっかり聴けたね」とすかさず褒める

**不器用で進歩が見られない子ども**
くじけないようにスモールステップで指導する
目標に達するまでにどんなステップがあるか書いて伝える

## こんな子どもにどう対応する？

どうしても支援が必要

## まとめ

①勝利至上主義は、
子どもの主体性を奪う
～発達障害を含むどんな
子どもにもスポーツ参加の機会を

②発達障害はスペクトラム(連続体)
～発達障害の子どもたちは増えている
正しく理解して対応を

③TEACCH　目で見てわかる指導を

④応用行動分析　褒めることで強化する